

(1) 共働のきっかけ・必要性

福岡市には古代の我が国の玄関口として重要な役割を果たした我が国最初の迎賓館である鴻臚館跡があり、発見当時、大きな話題となりました。しかし、鴻臚館跡展示館の年間入館者数は、平成元年度の11万人余から平成30年度の2万9千人まで減少しており、鴻臚館発見から30年経った今、話題性、認知度が低下しています。

そのため福岡市では「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」を策定し、鴻臚館の時代の理解につながる復元整備及び体験プログラムの提供を進め、集客や多様な交流を目指していますが、実現には行政単独では限界があります。そのため地域、民間、NPOの参画を得た新たな発想による事業を創出し、実行に移していくために、歴史や文化啓発のワークショップの企画実践経験を有し、NPOと共働することにより地域、民間、NPOの参画を得た新たな発想による事業を対等な関係で検討し、実現を目指していくこととしました。



多くの見学者が押し寄せた鴻臚館跡の発掘現場

(2) 事業目的

鴻臚館に訪れた賓客に振舞われたおもてなし料理を復元し、現代にアレンジした料理を創作、活用することで、鴻臚館への理解を深めるとともに、にぎわいの創出や多様な交流を促進することを目的としています。

(3) 事業目標

1. 目指す事業成果

古代おもてなし料理の調査・再現をもとに、誰もが「活用したい」、「活用しやすい」事業展開を図ることによって、アレンジメニューの創造や鴻臚館イメージを活用（鴻臚館ブランド）する店舗等の増加を目指します。さらに鴻臚館跡展示館への来館者数が増加する（文化財価値の周知）ことを目指します。

2. 成果指標(3年間)

成果指標	現状値	現状値	現状値	目標値
		(R2)	(R3.8)	(R4)
古代おもてなし料理メニューの数	0	1	1	1
アレンジメニューの数	0	0	2	15
鴻臚館ブランド（仮称）参加店舗の数	0	0	0	5
鴻臚館跡展示館の来館者数（年間）	29,579	11,011	2,987	40,000
民間によるユニークメニューの数	0	0	1(11月17日)	2

(4) 事業内容

1. 総合体験プログラムの準備

(1) 検討会

昨年度企画した総合体験プログラムに向け、NPO および市とで検討会を行い、具体的な内容を決定しました。



調査研究会メンバー

	氏名	所属	備考
NPO	岡 大輔	NPO デザイン都市・プロジェクト理事長	実行委員長
	中村 翁團	茶人、専門学校非常勤講師	
	富松 由紀	フリーライター、料理コーディネーター	
	徳淵 卓	株式会社万代表取締役	
	白鶴 陸子	香司	
	高宮 由美子	NPO 子ども文化コミュニティ代表理事	
	戸川 麻里子	NPO デザイン都市・プロジェクト理事	事務局
	内山 直紀	NPO デザイン都市・プロジェクト	
	安東 克毅	NPO デザイン都市・プロジェクト	
福岡市	長家 伸	史跡整備活用課	副実行委員長
	中村 啓太郎	史跡整備活用課	事務局
	吉田 大輔	史跡整備活用課	
	菅波 正人	埋蔵文化財課	
	杉山 未菜子	博物館	
	小野 勉	地域観光推進課	
	入戸野 太郎		
万代	観光コンベンションビューロー		
中村 里彩	観光コンベンションビューロー		

# 鴻臚館 遺響



鴻臚館は、9世紀前半までは、遣唐使や遣新羅使が旅支度を整える対外公館として、9世紀後半以降は中国との貿易の舞台となった。

ここで供された料理は、無事への願い、相手への尊厳、国の威信などさまざまな思いがおもてなしの形として表現された。

鴻臚館遺響は、鴻臚館おもてなし料理のかつての姿の調査成果を展示し、その余韻を後世に残る風習や教えとして形式化を試みるものである。

## I 鴻臚館おもてなし料理の展示

奈良・平安時代の文献調査、鴻臚館跡発掘調査、事例調査の成果を展示します。

## II 鴻臚館跡の空間を活かしたユニークベニューの実践

遺構が露出展示される展示館において茶と音楽により場の力を高める活用を行います。

## III 現代的鴻臚館おもてなし料理の形式の提示

鴻臚館おもてなし料理の現代的活用と展開に向けたアレンジメニューの提供を行います。

## I 鴻臚館おもてなし料理の展示

- 2021年11月27日(土)～28日(日)
- 時間/10:00～18:00(一般)
- 場所/鴻臚館跡展示館
- 入場料/無料

奈良朝の食文化、鴻臚館発掘調査、事例視察等を踏まえ、現在までに明らかになっている成果及びそこから考察される鴻臚館ならではのおもてなし料理について展示を行う。

キーワード

奈良朝食文化、鴻臚館跡発掘調査、鴻臚館おもてなし料理

参考イメージ



鴻臚館跡展示館をユニークベニューとして活用した国際会議MICRO(マイクロ)レセプション

## II 鴻臚館跡の空間を活かしたユニークベニューの実践

- 2021年11月27日(土)
- 時間/18:00～20:00
- 場所/鴻臚館跡展示館
- 人数/30人
- 参加費/5,000円
- ディレクション/徳淵卓

鴻臚館の歴史を踏まえつつ、そこに縛られることなく特有の景観を活かして特別な体験を提供する民間活動の場としてデモンストレーションを行い、民間事業者による鴻臚館跡の活用を促進するPRを行う。

キーワード

民間活用、ユニークベニュー、ピアノソロ茶会

参考イメージ



徳淵卓 万オーナー  
株式会社 万ヤ 代表取締役社長  
一般社団法人 茶方會 理事・草司

### III 現代的鴻臚館おもてなし料理の形式の提示

- 2021年11月28日(日)
- 時間/① 11:00～12:30 ② 13:00～14:30
- 場所/鴻臚館跡展示館及び屋外
- 参加費/5,000円
- 人数/20人×2回

かつて貴族や高官の間で食された「特別な食」を現代の「市民の食」として後世へ引き継ぐためのアレンジメニューの提供と、古代に思いを馳せる遺物のハンズオン展示、室札及び所作等の形式を提示することで、現代的活用と展開を図るための形式化を試みる。

#### KEYWORDS

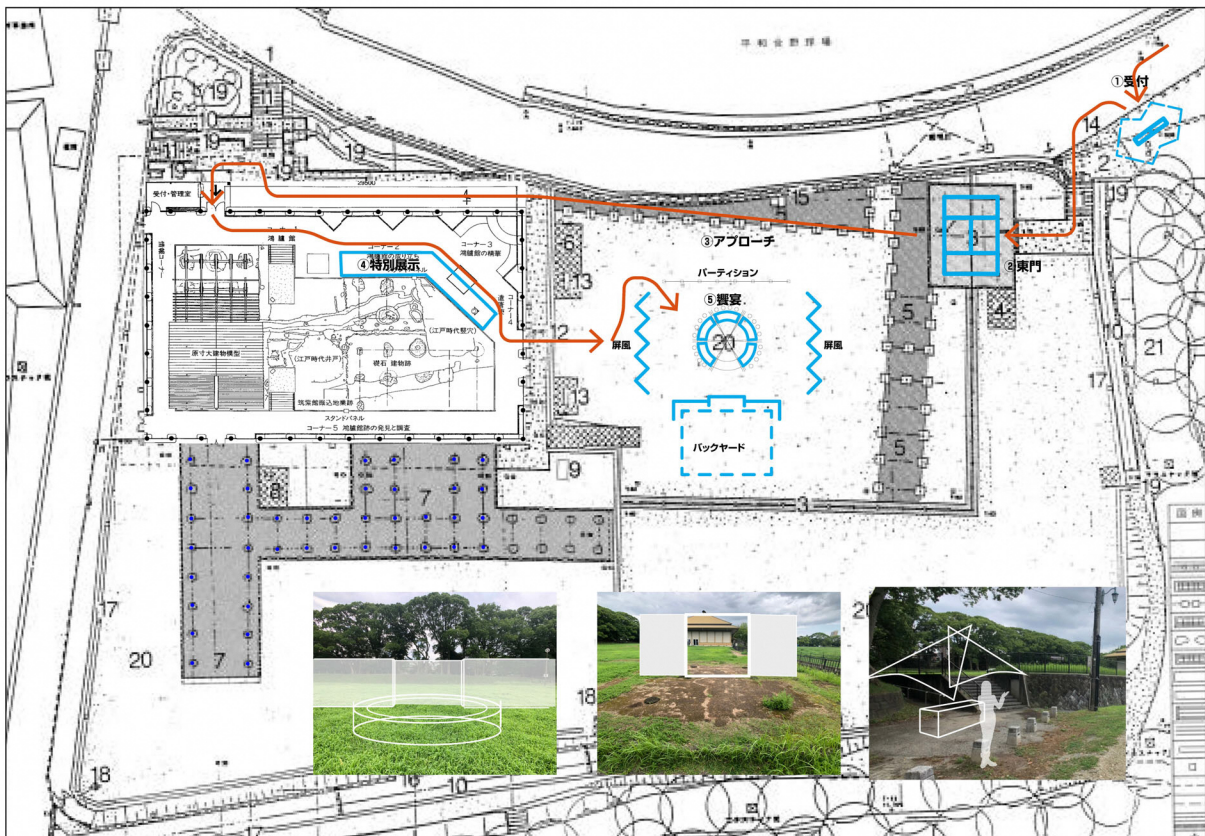
豊かで洗練された食文化、海の幸山の幸に恵まれた豊かな食材、旅の無事を願い食に託された健康、現代における「御馳走」

#### 参考イメージ



[https://yumehaku.jp/event/post\\_3389/](https://yumehaku.jp/event/post_3389/)

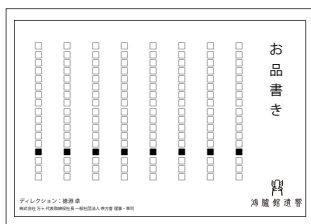
Yumehaku Art & Food in RURIKOJI 『Osmosis 滲透』  
滲透する水に導かれ、山口の風土や文化を五感で  
味わう3日間限りの特別な食体験



(2) イベントツール (作成中)

「鴻臚館遺響」のブランディングの方向性を押さえつつ、料理のメニューを示した「お品書き」とプラグラム概要をまとめた「由来書」を作成する。

お品書き



由来書

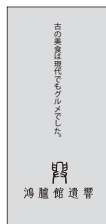
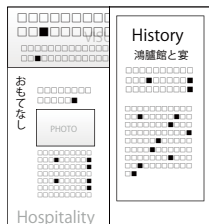
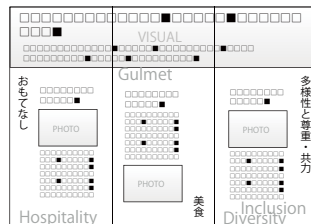


表1



見開き



中面

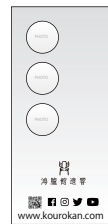
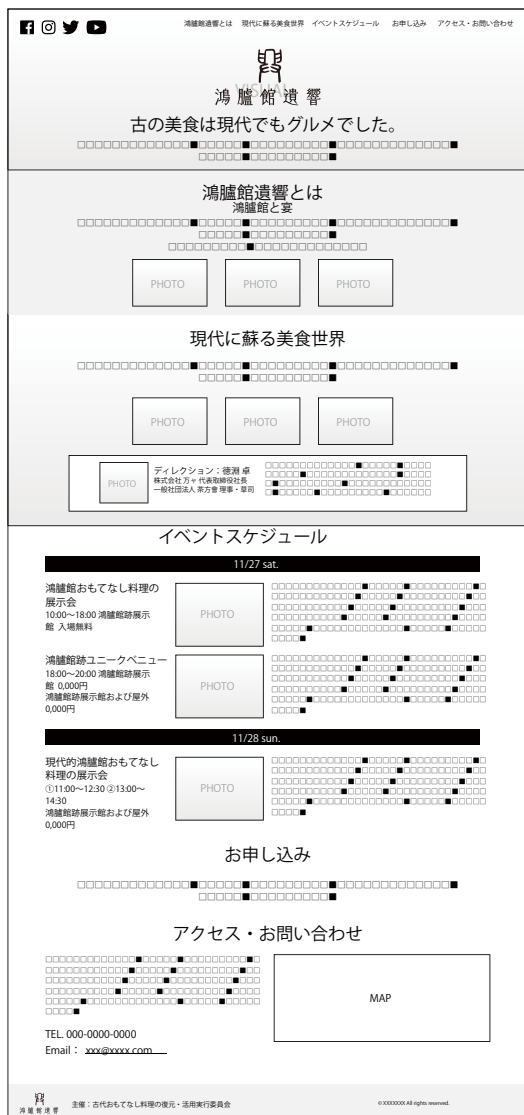


表4

(3) Web サイト (作成中)

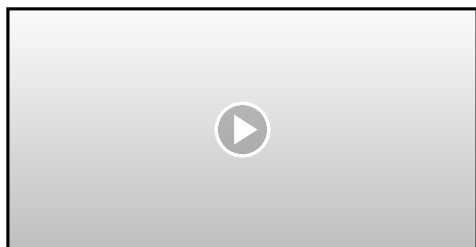
「鴻臚館遺響」の告知、目的や活動なよの周知のため、Web サイトを作成、公開する。また来期以降へと継続することを前提とし、本年度はティザー的な構成とする。



#### (4) 映像(作成予定)

ブランディング&プロモーション用の映像(PV)を作成し、Web や SNS での露出を効果的に行います。また、今年度のイベントを撮影し、After Report として SNS などに展開、来年への期待感を持たせます。

##### 告知PV



##### [構成案]

出土遺物の器や料理の静止画、徳淵 卓氏、調理風景などを動画で構成したシンプルな映像。ラストは Peatix と URL を掲載。

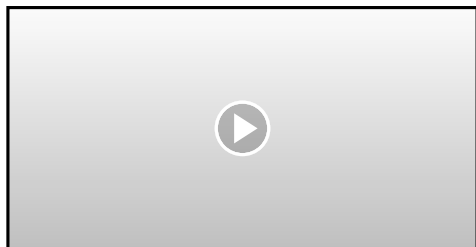
##### [仕様]

30～60秒/音楽/テロップ

##### [掲載媒体]

Web、YouTube、SNS

##### After Report



##### [構成案]

イベントの様子のビデオレポートダイジェスト版。

##### [仕様]

3～5分/音楽/テロップ/ナレーションなし?

##### [掲載媒体]

Web、YouTube、SNS

## 2. 総合体験プログラムの実施

11月27日(土)、11月28日(日)に実施予定。

## 3. アレンジメニューの検討

昨年度の調査研究を踏まえた「鴻臚館おもてなし料理」の方向性及び再現をもとに、総合体験プログラムを実施する11月(秋)にふさわしいアレンジメニュー、器、おもてなしの所作の検討を行った。



昨年度再現の鴻臚館おもてなし料理

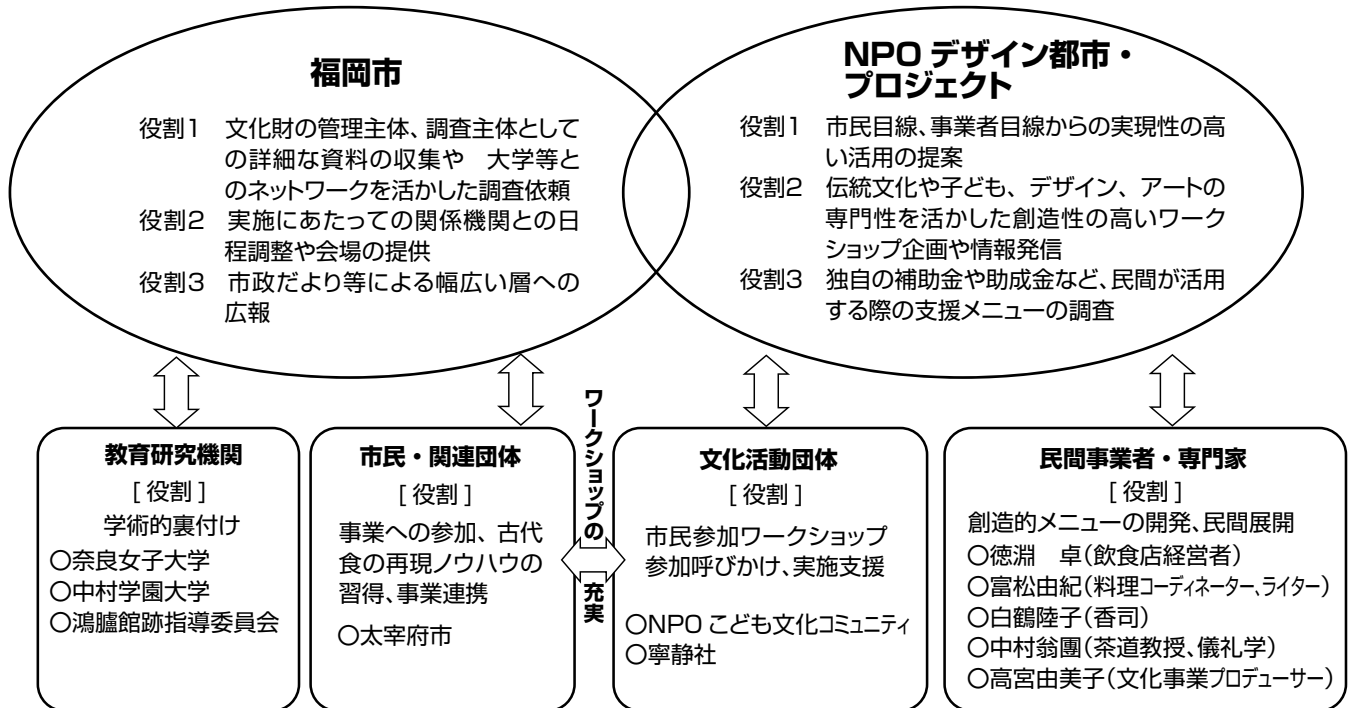
## 4. ワークショップの実施

参加者募集済みで、実施予定であった5月29日(土)の「お香づくり」、8月25日(水)の「藍染め体験会」はコロナウイルス蔓延防止等重点措置の発出中における福岡県の「特別警報」の影響で中止となった。開催時期については現在、11月に開催する方向で検討中。

また、昨年度限定した参加の中で行った「蘇づくりワークショップ」及び「お香づくりワークショップ」については開催時期を含めて企画中。

## (5) NPO と市の役割分担

市は、教育機関や他都市関連団体とのネットワークを活かしながら学術的な観点からの文化財の価値や再現に向けた資料収集を行い、NPO は、鴻臚館の魅力を活かした事業展開に興味のある民間団体や事業者などと連携を図りながら、実現性の高い事業を検討しています。



## (6) 担当者の声・市民の声

ワークショップが中止になったことから、市民の声を聞く機会がなかった。

実行委員会内における緊急事態宣言発出中も、感染予防に配慮しながら検討会は個別、全体会を開催し、具体的内容の検討を行ってきた。

## (7) 令和4年度への展開

鴻臚館ブランド(仮称)の事業展開・ハンドブックの作成

1年目、2年目の成果をもとに料理にとどまらない「遊ぶ」「食べる」「感じる」の「鴻臚館ブランド」としてまとめ、ブランドの主旨に賛同し、メニューを採用したり、新たなアレンジメニューを創作する店舗等のネットワークを構築する。合わせて市民が「活用したい」「活用しやすい」情報をまとめたパンフレットを作成する。

- ・アレンジメニューを使った事業実施(3年次)
- ・パンフレット(鴻臚館ブランドコンセプトブック)の企画・作成